

Aegean Civilization(エーゲ文明)

紀元前 2600 年～紀元前 1200 年

いずれも Bronze Age civilization(青銅器文明)

(1) Cretan civilization(クレタ文明) (Minoan civilization(ミノア文明))

繁栄した時期：紀元前 2000 年頃～紀元前 1400 年頃

民族：不明

主な都市：Kreta(クレタ)[羅 Creta(クレタ),英 Crete(クレイト)]島の Knossos(クノッソス)など

文字：線文字 A (未解読)

主な遺産：クノッソス宮殿(城壁がないのが特徴で、明るい海洋文明とされています。壁画として、花鳥・海洋動物・宮廷生活などが描かれています。また、数百の部屋が複雑に配置されていることから、ギリシア神話の迷宮 labyrinthos(ラビュリントス)[羅 labyrinthus(ラビュリントゥス),英 labyrinth(ラブリンス)]のもとになったともいわれています。)。他の宮殿も同じようです。

クレタの壺 (海洋動物などが描かれています)

滅亡の原因：アカイア人により滅亡

発掘年度と発掘者：1900 年(英)Sir Arthur John Evans(サー・アーサー・ジョン・エヴァンス)[1851 年 7 月 8 日～1941 年 7 月 11 日]

(2) Mycenaean civilization(ミケーネ文明)

繁栄した時期：紀元前 1600 年頃～紀元前 1200 年頃

民族：アカイア人

主な都市：Greek mainland(ギリシア本土)の Mykenai(ミュケナイ) [羅・英 Mycenae(ミュケナエ・マシネー)], Tiryns(ティリュンス)

文字：線文字 B (1952 年に(英)Michael George Francis Ventris(マイケル・ジョージ・フランシス・ヴェントリス)[1922 年 7 月 12 日～1956 年 9 月 6 日]が解読)

主な遺産：城壁のある王宮(このうち Mykenai(ミュケナイ)にあるものは、ギリシア神話のアガメムノンの城と言われ、入場門には王家の紋章の獅子が描かれている。) 王族の墓と思われる円形墓域、多量の黄金製品 黄金の仮面(Mykenai(ミュケナイ)の城から複数見つかっており、ギリシア神話のアガメムノンのマスクとされています。)

滅亡の原因：海の民の侵入、気候変動、貢納王政(注)のいきづまり、など複数の原因とされていますが、はっきりしたことはわかっていません。

(注)国王が官僚を使って地方から農産物や手工業製品などを貢納させ、王宮の経営や国政に利用することを貢納王政という。

発掘年度と発掘者：1876 年 (独)Johann Ludwig Heinrich Julius Schliemann(ヨハン・ルッヴィヒ・ハインリッヒ・ユリウス・シュリーマン)[1822 年 1 月 6 日～1890 年 12 月 26 日]

(3) Trojan civilization(トロイア文明)

繁栄した時期：紀元前 2600 年頃～紀元前 1200 年頃

民族：不明

主な都市：小アジアの Troia(トロイア)[イオニア方言 Ilios(イリオス), 羅 Troja/iliu(m)(トロヤ/イリウム), 英 Troy(トロイ)]

主な遺産：黄金や銀の王冠・容器・装身具

滅亡の原因：アカイア人により滅亡

発掘年度と発掘者：1871 年 (独)Johann Ludwig Heinrich Julius Schliemann(ヨハン・ルッヴィヒ・ハインリッヒ・ユリウス・シュリーマン)[1822 年 1 月 6 日～1890 年 12 月 26 日]

ヨーロッパでは、ギリシア神話の中には、子供用の絵本などにもなっている話もあります。ドイツの Schliemann(シュリーマン)は、幼いときからギリシア神話が大好きで、特に大好きなのはトロイア戦争の話で、それが事実に基づいていると信じていました。特に、7歳の時に読んだ絵本の挿絵『**トロイアを逃れるアイネイアス**』を見て、大人になったら「必ず Troia(トロイア)の町を探しに行く」と心に誓っていました。もちろん、当時は Troia(トロイア)の町が本当にあるなんて、Schliemann(シュリーマン)以外は誰も信じてはいませんでした。これはギリシア神話の中の話なので、事実に基づいた話であると考えの方が無理でした。しかし、Schliemann(シュリーマン)は幼いときの誓いを守り続け、発掘に必要な莫大な資金を得るために必死に働きました。その間に、いずれ必要となる複数の言語を勉強していきました。そして、ドイツで3本の指に入る大富豪になりました。彼は、お金も不動産などの財産にも全く興味はなく、50歳になる前に、会社も自宅も売って、それを資金として発掘を始めたのです。周囲の人はあきれていました。当然ですが、Schliemann(シュリーマン)の会社の部下たちに言わせると「殿が御乱心」なのだと思います。周囲の引き留めに一切耳を貸さず、わずか7歳の時に誓ったことを実現するために発掘を始めると、ほんとうに Troia(トロイア)の遺跡が見つかりました。そこに、戦争で破壊された跡もありました。ここで彼は「トロイア戦争が本当の出来事なら、それと戦ったギリシア本土の町もあるはずだ。」と考え、ギリシア本土の発掘も行い、Mykenai(ミュケナイ)の城も発見してしまいました。ギリシア神話のトロイア戦争でのアカイヤ遠征軍の総大将 Agamemnon (アガムノン)の城です。そこではたくさんの黄金製品が見つかり、特に彼が気に入ったのは、黄金の仮面で、Agamemnon (アガムノン)のマスクと呼ばれています。さらに、彼は「アカイヤ遠征軍は Mykenai(ミュケナイ)だけではないから、他の国もあるはずだ。」と考え、ギリシア本土の Tiryns(ティリュンス)の城も発掘しました。彼は**夢を叶えた**のです。